

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 10 日現在

機関番号：32681

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K13488

研究課題名(和文) 芸術系グローバル人材就労支援のための調査研究：芸術系元留学生のライフストーリー

研究課題名(英文) Research to support the employment of global human resources in the arts: Life story of former international students in the arts

研究代表者

三代 純平 (Miyo, Jumpei)

武蔵野美術大学・造形学部・准教授

研究者番号：80449347

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、芸術系大学で学び、日本で就職した元留学生のライフストーリー調査である。近年、急増の傾向にあった芸術系大学で学ぶ留学生のキャリアを考えるための基礎研究となることを目的とした研究である。調査からは、以下のことが明らかになった。芸術系大学出身の元留学生は、デザイン関係の仕事についているケースが多いが、採用においても、採用後の業務においても高い日本語能力が求められる。デザイナーとして仕事をする中で、はじめて自分がデザイナーとしてどうありたいかが明確になり、そのビジョンに従って、転職するという傾向がある。従って、芸術系留学生に対するキャリア支援も総合的、かつ長期的なものが求められる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、芸術大学で学ぶ留学生の数は、急増している。一方で、彼らに対する研究はほとんど行われていない。彼らの多くは日本での就職を希望している。彼らの日本語教育、およびキャリア支援を考える上で、本研究の知見は役立つと思われる。また調査過程で、検討された質的研究としてのライフストーリーに関する考察は、日本語教育における質的研究を検討することに資すると思われる。

研究成果の概要(英文)：This research is a life story survey of former international students who studied at an art university and got a job in Japan. This research aims to be a basic research for thinking about the careers of international students studying at art universities, which have been on the rise in recent years. The survey revealed the following: (1) Former international students from art colleges are often engaged in design-related work, but high Japanese proficiency is required both in recruitment and in post-employment work. (2) By working as a designer, it becomes clear what he/she wants to be as a designer for the first time, and there is a tendency to change jobs according to that vision. Therefore, comprehensive and long-term career support for art students is required.

研究分野：日本語教育

キーワード：芸術系元留学生 ライフストーリー 日本語教育 キャリア教育 就職支援

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初、日本語教育では社会文化的アプローチが積極的に導入され、社会参加から言語教育を捉えることの重要性が認識されており、留学生の社会参加とことばの学びの関係を調査した研究も増加している状況にあった。また、2008年の「留学生30万人計画」で日本で就職し活躍するグローバル人材として留学生が位置付けられたことにより、日本語教育においても留学生の就職支援体制構築のための調査研究が盛んに行われ、就職を社会参加の重要な形と位置付け、就職とことばの学びを捉え直す動きも出はじめていた。

しかし、元留学生の就職に関する調査は、一般企業を対象としたものに限られており、本科研で取り上げた芸術系元留学生を対象とした研究は行われていなかった。したがって、芸術系元留学生を研究すべき理由は次の2点にあると考えられた。

(1) 芸術系留学生の急増 (2) 新しい文化を創造するグローバル人材

当時から現在まで日本の大衆文化への関心は、強い日本語学習動機となっており、芸術系の専門を学ぶために来日する留学生は多い。そのため芸術系の専門学校において留学生の占める割合は非常に高い。美術大学の留学生は近年急増し、日本語学校においても美術大学進学コースが作られている。芸術系元留学生は、日本で芸術を学び、日本国内外で芸術系グローバル人材として活躍することが期待される。彼らは、日本と世界をつなぐと同時に、そこからハイブリットな新しい文化を創造するクリエイターとなる。しかし、彼らがどのような職業に従事し、日本での学びをどのように生かし、どのように新しい文化の発展に寄与しているのかは、これまで研究の対象となっておらず、明らかにされていないのが現状であった。

2. 研究の目的

芸術系元留学生のライフストーリー調査から以下の3点を明らかにすることを目的とした。

- (1) 日本で就職する芸術系元留学生は、どのように就職活動、就労生活を体験しているのか。
- (2) 芸術系留学生に必要なコミュニケーション教育およびキャリア教育とは何か。
- (3) 日本語教育学としてのライフストーリー研究のあり方とはいかなるものか。

3. 研究の方法

ライフストーリー法を用いた。ライフストーリーは、語り手の主観から、現実の社会的構成に迫る研究方法であり、芸術系元留学生自身が就職をどのように体験しているのかを明らかにすることにより、彼らの現実世界の構成から支援のあり方を構想できる点で優れている。ライフストーリー研究の特徴は、インタビュー・データを「ストーリー」として捉え、語りの構造、語りの様式、語りに編み込まれた調査者の構えを分析することで、調査協力者の主観的経験が形成されるプロセスやそこにある社会的言説にまで迫り、より深い考察と社会への働きかけを可能にすることにある。

日本の芸術系大学を卒業し、日本国内の企業に就職している元留学生20名に1回から数回にかけてインタビューを行った。

4. 研究成果

本研究の成果を、目的の3点から記述する。

- (1) 日本で就職する芸術系元留学生は、どのように就職活動、就労生活を体験しているのか。調査を通じて明らかになったことは次の4点である。

① 調査協力者は、自分の専門性を高める、つまりデザイナーとしてなりたい自分へと近づくアイデンティティ交渉として、就職および、就労を捉えている。

② 就職活動、就労生活を通じて、自身のキャリアへの捉え方は変化する。

③ 就職、および就労におけるコミュニケーションや他者との協働の重要性への認識を高めている。

④ 職場において、異文化や多様性の理解や配慮の必要性を感じている。

まず、①についてであるが、調査協力者たちは、就職・就労をアイデンティティ交渉として経験していることがわかった。それは、すなわち、日本語教育としての就職支援も、彼らがいかにありたいかということとの関係の中でその支援のあり方を考えなければならないことを示唆している。

②においては、長く調査に協力してくれた協力者は、専門を変更しての学び直しや、転職などを経験していた。当初、教師でもある研究者は、そのような協力者について、自分のキャリアについてしっかり考えられていないことが課題であるという捉え方をしていた。しかし、調査を継続していくと失敗や葛藤を繰り返すことによって成長しながら、自分のキャリアを構築してい

く姿を観察することができた。このことは、具体的な就職という目的に向かったキャリア支援（例えば、自己分析や企業研究）の一方で、より包括的なキャリア支援（学び直しの方法の提示など）のような長期的な視野に立ったキャリア支援も検討することが重要であることを示唆している。

③については、デザイナーなどの専門職において、日本語教育が軽視される傾向があるが、実際には、日本語による高いコミュニケーション能力が求められることがわかった。このことは、芸術系の学校においても日本語教育の充実が必要であることを意味している。

④であるが、多くの調査協力者たちが、職場において差別や偏見を感じたことがあると話している。また、外国人にとって働きにくい制度（帰国し家族に会うために有給をまとめてとることが制限される）、働き方（言語的サポートがない一方で、翻訳や通訳があると頼まれる）などを経験している。これは、とくに芸術系の元留学生の特徴ではなく、日本で働く元留学生において共有してみられる経験である。日本語教育が多文化に開かれた日本語によるコミュニケーションを実現することを目的とするならば、留学生のみを対象とした教育に限界があると言わざるを得ない。

(2) 芸術系留学生に必要なコミュニケーション教育およびキャリア教育とは何か。

上記の調査結果より示唆される芸術系留学生に必要な教育は、以下の2点である。

- ① 就職に向けた日本語教育の充実
- ② 留学生に限定されない日本語教育の充実

①については、就職に向けた具体的な日本語教育の充実を、芸術系大学の実情（ポートフォリオ作成や、作品についてのプレゼンテーション等）を考慮した上ではかる必要がある。一方で、より長いキャリアに向けた、批判的思考力や協働する力など、いわゆる社会人基礎力につながる部分の教育も充実させる必要がある。

②については、社会全体で新しいコミュニケーションのあり方を学ぶという姿勢を教育から積極的に示す必要がある。そこで、本科研の二次的な成果として、筆者が務める美術大学においては、一部の日本語クラスを全学生に開き、同時に、企業と連携するプロジェクト型の授業としてリデザインした。このことにより、留学生、日本人学生、企業がその境界を越境し、共に学ぶ合う形に日本語教育が模索されている。その実践の成果は、三代・米徳（2021）という形で上梓した。

(3) 日本語教育学としてのライフストーリー研究のあり方とはいかなるものか。

調査経験をふりかえり、日本語教育学における質的研究のあり方としてライフストーリー研究を議論することも本研究の目的の一つであった。

ライフストーリー研究の大きな特徴としては、研究者の「構え」を研究対象に含むことである。それを日本語教育研究領域の中で捉えるならば、研究者と教育実践者が重なりながら、その「構え」を形成し、反省していくという構造が特徴として浮かび上がる。

当事者研究やオートエスノグラフィーの知見を取り入れることで、ライフストーリー研究における当事者性とは何かを検討すること、そして、研究と実践を往還させていくことで、ライフストーリー研究で得られた知見を日本語教育に還元していくことが、日本語教育におけるライフストーリー研究のあり方として提言できるであろう。この議論に関しては、北出・嶋津・三代（2021）等において研究成果として示すことができた。

参考文献

- 三代純平・米徳信一（編）（2021.3）.『産学連携でつくる多文化共生—カシオとムサビがデザインする日本語教育』くろしお出版.
- 北出慶子、嶋津百代、三代純平（編）（2021.6）.『ナラティブでひらく言語教育—理論と実践』新曜社.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 三代純平	4. 巻 23
2. 論文標題 小さな物語から社会を紡いでいくこと	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 リテラシーズ	6. 最初と最後の頁 19-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 三代純平	4. 巻 54
2. 論文標題 社会とつながり、社会をつくる日本語教育実践 - 産学連携「にっぽん多文化共生発信プロジェクト」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本語教育研究	6. 最初と最後の頁 7-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 三代純平	4. 巻 4
2. 論文標題 日本語教育におけるライフストーリー研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 語りの地平：ライフストーリー研究	6. 最初と最後の頁 133-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 4件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 三代純平
2. 発表標題 つなぎ・広げるための実践研究
3. 学会等名 2020逢甲大学第七屆外語文教學國際學術研討會（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三代純平
2. 発表標題 産学連携でつくる日本語教育実践 - にっぽん多文化共生発信プロジェクトの挑戦
3. 学会等名 韓国日語教育學會（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三代純平
2. 発表標題 ライフストーリー研究と日本語教育
3. 学会等名 第46回アカデミック・ジャパニーズ・グループ研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三代純平
2. 発表標題 実践研究としてのライフストーリー研究
3. 学会等名 国際シンポジウム：言語学習・言語教育におけるナラティブの国際的展望（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三代純平，北出慶子，嶋津百代
2. 発表標題 日本語教育とナラティブのインターフェイスを探る 私たちは語りに何を見たか
3. 学会等名 日本語教育学会2018年度秋季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三代純平, 辛銀眞, 嶋津百代, アンドリュー・パーク
2. 発表標題 キャリア形成とアイデンティティ 就職に関する当事者視点からの考察
3. 学会等名 韓国日語教育学会言語文化教育研究学会(日本)共同開催 2018年度第34回冬季国際学術大会(国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 三代純平・米徳信一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 239
3. 書名 産学連携でつくる多文化共生 カシオとムサビがデザインする日本語教育	

1. 著者名 北出 慶子、嶋津 百代、三代 純平	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 208
3. 書名 ナラティブでひらく言語教育	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------